

2025年度

作業療法学科 2学年
教育計画

関東リハビリテーション専門学校

2025年度 教育計画（作業療法学科）

学 年： 2 科 目 名： 神経内科学 担当講師名： _____

単 位： 2 単位 教育時間： 30 時間

教科書： 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学 (出版社) (医学書院) 参考書： 全部見える 脳・神経疾患 (成美堂出版) (出版社)

教育目標 【到達目標】： 講義は3つの柱 ①解剖と機能 ②症候 ③疾患 以上を関連、包括的に理解することを目標とする。

【講義概要】

神経内科の領域で十分な理解を必要とする中枢神経系の解剖と機能について詳述した後に、疾患別の各論に入る。
症状・症候が似通った異なる疾患の鑑別についても学習する。

回数	項 目	内 容
1	導入と総論	中枢神経系の解剖学と生理、機能①
2		中枢神経系の解剖学と生理、機能②
3		中枢神経系の解剖学と生理、機能③
4		中枢神経系の解剖学と生理、機能④
5		神経症候学と所見の特徴①
6		神経症候学と所見の特徴②
7		神経症候学と所見の特徴③
8	疾患各論	脳血管障害の病態と所見
9		錐体外路疾患
10		認知症
11		脳腫瘍・外傷性脳損傷・てんかん
12		神経変性疾患・脱髄疾患
13		脊髄疾患・末梢神経障害
14		筋疾患・感染症・合併症
15	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】 講義による授業を中心に行う。
基本的に教科書の目次順で進行するので必ず教科書を持ってくること。

2025年度 教育計画（作業療法学科）

学 年 : 2 科 目 名 : 整形外科学 担当講師名 : _____

単 位 : 3 単位 教育時間 : 45 時間

教科書 : 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 整形外科 (出版社) : (医学書院) 参考書 : _____ (出版社) :

教育目標 【到達目標】 : 整形外科疾患の原因、症状、治療について理解する。

【講義概要】

整形外科疾患の中でも作業療法の対象となることが多い疾患の原因・症状・治癒過程を学んだ後、
 各関節や骨の部位に視点を当てて、各論を学ぶ。

回数	項 目	内 容
1	運動器の構造と機能	骨、筋肉、関節の構造
2	〃	上肢、下肢、脊椎の構造
3	整形外科疾患総論	骨、関節の感染症、慢性関節疾患
4	〃	代謝性骨疾患、関節リウマチ
5	〃	骨腫瘍
6	〃	運動器の外傷
7	整形外科各論	肩関節、上腕
8	〃	〃
9	〃	肘関節、前腕
10	〃	〃
11	〃	手関節、手指
12	〃	〃
13	〃	頸椎
14	〃	〃
15	〃	胸椎
16	〃	腰椎
17	〃	胸郭
18	〃	骨盤、脊柱変形
19	〃	股関節、大腿
20	〃	膝関節、下腿

2 1	〃	〃
2 2	〃	足関節、足
2 3	まとめ	総合確認
【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。		
【授業の方法・形式と教員紹介】 講義を中心とした授業を行う。 プロジェクターの準備をしてください。		

2025年度 教育計画（作業療法学科）

学 年 : 2 科 目 名 : 発達障害OT学

担当講師名 :

単 位 : 2 単位 教育時間 : 45 時間

教科書 (出版社) : 作業療法学全書 改訂第3版 第6巻 作業治療学3 発達障害 (出版社) 参考書 (出版社) :

教育目標 【到達目標】 : 1. 発達障害に対する作業療法の理論と実際を、科学的な仮説と結びつけて理解する。

2. 発達障害領域の実践に必要な知識・視点について理解し、興味と意欲を持つ。

【講義概要】

各回の詳細は下記の表のとおり。

回数	項 目	内 容
1	小児のOT概論	LDの症例を通して、発達障害作業療法における障害、評価、治療の概要を知る。子どもの目的、セラピストの目的の両立の大切さを知る。
2	自閉症スペクトラム1	発達障害領域の対象で最も多い自閉症スペクトラム障害について、基本知識と、まず典型例を理解する。
3	自閉症スペクトラム2	自閉症の学習スタイル、早期療育の実際、思春期から成人期の就労や生活の工夫について知る。
4	自閉症スペクトラム3	自閉症スペクトラム障害に対して、OTが治療対象とする行為障害や感覚調整障害等の理解と対応を知る。
5	注意欠陥/多動性障害	定義、状態像を学び、評価、治療、療育教育等のかかわりの全体像を理解する。
6	発達性協調運動障害	発達性協調運動障害について、いわゆる不器用児から発達性行為障害のレベルまでの状態像、評価、治療について知る。
7	行為とは	OTは行為を手段として行為遂行障害を改善します。行為つまり目的志向行動の神経学的メカニズムと、動機づけられた行動の認知的アプローチを理解する。
8	心と行動の発達1	内発的動機づけ、対象関係、二者関係等の適応行動の発達について理解し、治療的対応を知る。
9	心と行動の発達2	集団関係の発達を、ADHD児のグループセラピーの経過を通して理解し、治療的対応を知る。
10	中枢性運動障害1	脳性マヒ等の定義、中枢神経性運動障害の原因と症状について理解する。
11	中枢性運動障害2	中枢神経性運動障害の分類と症状、治療原理と発達経過について理解する。
12	中枢性運動障害3	重症心身障害等の定義、状態像を学び、評価、治療、療育、教育等のかかわりの全体像を理解する。
13	神経筋疾患、てんかん、他	進行性筋ジストロフィー症、てんかん等の定義、状態像を学び、評価、治療、療育、教育等のかかわりの全体像を理解する。
14	小児の高次脳機能障害	発達障害領域の高次脳機能障害の状態像を学び、評価、治療的対応を知る。
15	おもちゃの制作	アクティビティで子どもが作るおもちゃか、手作りスイッチを作ります。
16	視覚・視知覚	視覚の発達、眼球運動の評価、視知覚の発達等について、評価・検査・指導を理解する。また視線入力装置(トビー)によるPCの操作や視覚運動の評価を演習します。
17	感覚運動の発達	姿勢反射・反応の発達、運動発達の里程と視点を、中枢神経性運動障害と関連付けて理解する。
18	発達検査、知能検査	日本版デンバー発達スクリーニングテスト、知能検査、発達検査、グッドイナフ人物画知能検査等の概要を知る。
19	手の機能と発達	手の機能と操作の発達、具体的な訓練アクティビティについて知る。
20	ADL、ADSLの評価と演習	「やっぱりOT」と言われるような基本動作(はし、はさみ、鉛筆、コンパス、ボタン等)について演習しながら分析する。

2 1	事例検討 自閉症スペクトラム	幼児期から就労までの症例Aの経過を通して、評価、問題点の抽出、治療プログラム、再評価という一連の過程を知る。
2 2	障害の受容と告知・補講	障害児本人への障害告知のあり方を考える。また保護者の受容過程を理解し、保護者支援を考えることができる。また、それまでの講義の補足をします。
2 3	まとめ	総合確認
【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。		
【授業の方法・形式と教員紹介】 講義と事例検討（演習）による授業を行う。 中山は発達障害OTの現場で働いているので、日々の実践のトピックスを紹介します。 また、ほぼ毎回、DVDで実際の場面を見てもらいます。		

2025年度 教育計画（作業療法学科）

学 年 : 2 科 目 名 : 基礎OT学(作業治療学)

担当講師名 : 齋藤 勝

単 位 : 2 単位 教育時間 : 30 時間

教科書 (出版社) : 標準作業療法学 専門分野 基礎作業学 第4版 参考書 (出版社) :

教育目標 【到達目標】 :

作業療法における作業の適用のしかたを学び、作業の分析を通して評価学や治療学の基礎とする。

【講義概要】

道具や物を扱う「ヒト」の脳・手・心理の生理機能を学び、それらが障害された際に、どのような作業を

用いて治療にあたるべきか、ヒトと作業の両側からマッチングの重要性を学ぶ。

回数	項 目	内 容
1	概要説明、作業と治療①	概要、作業療法の成り立ちについて概観する。
2	作業と治療②	作業療法士に必要なコミュニケーションスキルについて学ぶ。
3	作業と治療③	ものづくりから活動分析を通して作業療法体験につなぐ。
4	作業と運動生理機能①	運動学・神経生理学の視点から作業療法を考える。
5	作業と運動生理機能②	作業が運動器に作用する機序について学ぶ。
6	作業と心理①	対象者が自発的な活動を行い継続する仕組み、心理が相互に作用する機序を理解する。
7	作業と心理②	対象者の自発的な行動を誘発し、継続できるための支援。行動学習の理論を学ぶ。
8	ライフステージと作業療法①	「発達期と作業」作業と人間発達の関係について理解する。
9	ライフステージと作業療法②	「青年期と作業」作業と人間関係の構築について理解する。
10	ライフステージと作業療法③	「高齢期と作業」高齢期にある役割と作業、心理について理解する。
11	活動分析	アクティビティや事例を通して概観する。
12	作業分析	アクティビティや事例を通して概観する。
13	作業・作業活動をもちいる①	作業をどのようにもちいるか、もちいられる過程、学習条件を学ぶ。
14	作業・作業活動をもちいる②	伝えるコツ、関わりのコツを学び、考える。
15	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】 専任教員（作業療法士/精神障害領域の実務経験）

講義と作業分析の2本柱で授業を行う。

演習時には、既習の「基礎作業学実習Ⅰ・Ⅱ」のノートを参考にすること。

2025年度 教育計画（作業療法学科）

学 年 : 2 科 目 名 : OT管理学 (OT管理学) 担当講師名 : 奈良 研治

単 位 : 2 単位 教育時間 : 30 時間

教科書 (出版社) : 作業療法管理学 医歯薬出版社 参考書 (出版社) : なし

教育目標 【 到達目標 】 : 管理・運営の基礎について学び、職業人としての作業療法士像を理解する。

【講義概要】 組織マネジメント・リスク管理・職業倫理・職域と役割・作業療法と取り巻く諸制度・医療福祉の職場管理と運営を入門的に扱い、これらの基礎を理解する。

回数	項 目	内 容
1	作業療法とマネジメント	マネジメントとは・目標管理と目標設定
2	組織の成り立ちとマネジメント	病院組織の特徴と組織における作業療法士の役割
3	情報のマネジメント	診療情報と記録・情報の取り扱いに関する注意事項
4	医療サービスのマネジメント	サービスの基本的特性と記録・情報の取り扱いに関する注意事項
5	医療安全のマネジメント	リスクマネジメント・医療事故の報告書の書き方
6	業務のマネジメント①	人材・部品・経済的事情に関するマネジメント
7	業務のマネジメント②	情報・時間・ストレスに関するマネジメント
8	業務のマネジメント③	マネジメントの具体的な実践例
9	作業療法の役割と職域	関連法規・職能団体の意義と役割・これからの職域
10	作業療法士の職業倫理	職業倫理と研究倫理・対象者の権利と尊厳
11	作業療法と諸制度	医療保険・介護保険・障害福祉・地域包括ケアシステム
12	臨床実習制度の理解	臨床実習の管理運営・指導方法
13	キャリア開発	実践と研究・資格認定制度・ワークライフバランス
14	総合的学習	過去13回分の振り返りと演習
15	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA (優)、70点以上80点未満をB (良)、60点以上70点未満をC (可) とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】 講義中心の授業を行う。

2025年度 教育計画（作業療法学科）

学 年： 2 科 目 名： OT評価学2（身体障害評価学Ⅱ） 担当講師名： 中村 正行

単 位： 1 単位 教育時間： 30 時間

教科書： 標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学(医学書院)
(出版社)： 新・徒手筋力検査法 原著(協同医書出版社)
ベトナムの神経の診かた(南山堂) 参考書： (出版社)：

教育目標 【到達目標】： 身体障害領域における基本的な検査技術を理解し修得する。

【講義概要】

徒手筋力検査法（MMT）を学ぶ。教員によるデモンストレーションの後、学生同士で当該テストを体験する。

筋の起始・停止・支配神経と関節運動を結びつけた上で、検査手技を習得する。

回数	項 目	内 容
1	MMT 概論	MMTの目的、方法、注意点等
2	肩甲骨周囲筋のMMT	肩甲骨周囲筋のMMTの概要、デモンストレーション、実技
3	肩関節筋のMMT	肩関節筋のMMTの概要、デモンストレーション、実技
4		
5	肘関節・前腕・手関節筋のMMT	肘関節・前腕・手関節筋のMMTの概要、デモンストレーション、実技
6	2～5指の筋のMMT	2～5指の筋のMMTの概要、デモンストレーション、実技
7	母指筋のMMT	母指筋のMMTの概要、デモンストレーション、実技
8	上肢筋MMTのまとめ	上肢筋MMT実技の総復習
9	股関節筋のMMT	股関節筋のMMTの概要、デモンストレーション、実技
10		
11	膝関節・足関節・足部筋のMMT	膝関節・足関節・足部筋のMMTの概要、デモンストレーション、実技
12	頸部・体幹筋のMMT	頸部・体幹筋のMMTの概要、デモンストレーション、実技
13	総括	MMT実技の総復習
14		
15	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA（優）、70点以上80点未満をB（良）、60点以上70点未満をC（可）とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】

2025年度 教育計画（作業療法学科）

学 年 : 2 科 目 名 : OT評価学3 (身体障害評価学Ⅲ) 担当講師名 : 中村 正行

単 位 : 1 単位 教育時間 : 30 時間

教科書 (出版社) : 身障評価学Ⅱと同じ 参考書 (出版社) :

教育目標 【到達目標】 : 身体障害領域における基本的な検査技術を理解し修得する。

【講義概要】

面接・観察・検査測定の実施と記録の方法を学ぶ。特に検査については、何を知るためにどのような

検査の目的・対象疾患についても学習する。

回数	項 目	内 容
1	面接	面接の目的、方法等、実技
2		
3	観察	観察の目的、方法等、実技
4		
5	感覚検査	感覚検査の目的、方法等、実技
6		
7	脳神経検査・姿勢反射検査	脳神経検査、姿勢反射検査の目的、方法等
8	腱反射検査	腱反射検査の目的、方法等、実技
9	握力・ピンチ力検査	握力・ピンチ力検査の目的、方法等、実技
10	筋緊張検査	筋緊張検査の目的、方法等、実技
11	上肢機能検査 (STEF、MFT)	上肢機能検査 (STEF、MFT) の目的、方法等、実技
12		
13		
14		
15	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA (優)、70点以上80点未満をB (良)、60点以上70点未満をC (可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】

2025年度 教育計画（作業療法学科）

学 年 : 2 科 目 名 : OT評価学 4 (身体障害評価学Ⅳ) 担当講師名 : 中村 正行

単 位 : 1 単位 教育時間 : 30 時間

教科書 (出版社) : 身障評価学Ⅱと同じ 参考書 (出版社) :

教育目標 【 到達目標 】 : 身障評価学Ⅰ～Ⅲ等で学んだ内容の理解を深める。

【講義概要】

これまでに学んだ評価技術を用いて、脳血管障害片麻痺の在宅生活者を対象に、実際の評価を行う。

評価計画の立案・評価の実施・レポート作成まで、一連の流れを体験する。

回数	項 目	内 容
1	概論、評価計画の立案	評価計画立案の概要
2	画像評価	脳のCTとMRIの診方
3		
4	基本検査や評価の復習	ROMの復習
5		
6		MMTの復習
7		
8	検査計画立案と実技練習	感覚検査の復習
9		特別講義に向けて検査計画の立案実習と実技練習
10		
11	特別講義	身体障害者の方へのROM検査等の実施と検査結果の記録等
12		
13	検査計画見直し	特別講義で立案した検査計画の見直し、修正
14	検査結果分析	特別講義で実施した検査の結果に対する分析
15	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】

2025年度 教育計画（作業療法学科）

学 年 : 2 科 目 名 : OT評価学5(精神科OT学Ⅲ)

担当講師名 : 齋藤 勝

単 位 : 1 単位 教育時間 : 30 時間

教科書 (出版社) : 作業療法学ゴールドマスターテキスト精神障害作業療法学 (出版社) 参考書 (出版社) :

教育目標 【到達目標】 : 精神科作業療法において、臨床につながる評価の視点を養う。

【講義概要】

精神科領域で用いられる作業療法評価を学習する。評価は観察・面接・検査測定と分類されるが、各種検査を紹介するなかで、それらの内容に「観察」が含まれることも合わせて学ぶ。

回数	項 目	内 容
1	概要	精神科OTにおける評価の概要・流れについて理解する。
2	情報収集	カルテや他職種からの情報収集について。
3	観察①	観察の重要性を理解し、客観的に記録することへつなげる。
4	観察②	客観的な記録について、個人情報保護について学ぶ。
5	面接法①	面接における意義・目的を理解する。
6	面接法②	様々な形態の面接を体験し理解を深める。
7	検査法①	評価における検査の意義・目的を理解する。
8	検査法②	興味関心チェックリスト ・ H T Pテスト
9	集団評価	ひと・集団・場について理解し、集団評価の意義・目的を学ぶ。
10	日常生活行動評価	対象者の日常生活行動を評価する意義・目的を学ぶ。
11	職業関連評価	精神科OTにおける職業関連評価の意義・目的を学ぶ。
12	精神科医療での評価尺度	社会機能評価、C O P M、R e h a b
13	評価からのまとめ①（症例）	様々な情報をまとめ全体像を把握し目標設定、プログラム立案へつなげる。
14	評価からのまとめ②（症例）	様々な情報をまとめ全体像を把握し目標設定、プログラム立案へつなげる。
15	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】 専任教員（作業療法士/精神障害領域の実務経験）

講義を中心とした授業形式であるが、プライバシー保護の及ぶ範囲で評価の演習を行う。

2025年度 教育計画（作業療法学科）

学 年 : 2 科 目 名 : OT評価学(OT総合演習Ⅰ) 担当講師名 : 笹野 直人

単 位 : 1 単位 教育時間 : 30 時間

教科書 (出版社) : なし 参考書 (出版社) :

教育目標 【 到達目標 】 : 身体障害評価において評価計画、目標設定、治療プログラムの立案ができる。

検査・測定を円滑に実施することができる。

【講義概要】

身体障害評価について、より臨床的、総合的内容を実技練習、課題演習を通して学習する。

回数	項 目	内 容
1	身体障害評価演習（1）	総合実技演習
2	身体障害評価演習（2）	総合実技演習
3	身体障害評価演習（3）	総合実技演習
4	身体障害評価演習（4）	総合実技演習
5	身体障害評価演習（5）	ケーススタディ
6	身体障害評価演習（6）	ケーススタディ
7	身体障害評価演習（7）	ケーススタディ
8	身体障害評価演習（8）	ケーススタディ
9	身体障害評価演習（9）	ケーススタディ
10	身体障害評価演習（10）	ケーススタディ
11	身体障害評価演習（11）	総合演習
12	身体障害評価演習（12）	総合演習
13	身体障害評価演習（13）	総合演習
14	身体障害評価演習（14）	総合演習
15	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 レポートの成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】 専任教員（作業療法士/身体障害領域の実務経験）

実技を中心とした形式で授業を行う。

2025年度 教育計画（作業療法学科）

学 年 : 2 科 目 名 : OT治療学3（基礎作業学実習Ⅲ）

担当講師名 : 奈良 研治

単 位 : 2 単位 教育時間 : 45 時間

教科書 (出版社) : ゴールドマスターテキスト3 作業学（メディカルビュー） 参考書 (出版社) :

教育目標 【到達目標】 : 制作活動を通して作業手順、方法等、必要とされる身体的・精神的機能、

効果について理解する。

【講義概要】

実際にアクティビティを実施することにより、その特性や段階づけも含めて工程を学ぶ。

全日程を通じて、物品や道具の管理を徹底し、不測のリスクを負わない習慣を身につける。

回数	項 目	内 容
1	陶芸	作業の一般的特徴を知り、全体像を理解する。道具の使用方法を知る。
2	陶芸	粘土づくり（荒練り・菊練り）
3	陶芸	成形法（玉づくり・ひもづくり・たたらづくり）を理解する。
4	陶芸	制作（成型・乾燥・素焼き）
5	陶芸	施釉（流しがけ・本焼き）
6	陶芸	作業特性（身体的側面・精神的側面）を理解する。
7	陶芸	作業の一般的特徴を知り、全体像を理解する。
8	機織り	制作（整経・機上げ）
9	機織り	制作（縦糸準備・織る）
10	機織り	制作（織る）
11	機織り	制作（織る・仕上げ）
12	機織り	作業特性（身体的側面・精神的側面）を理解する。
13	機織り	作業の一般的特徴を知り、全体像を理解する。
14	革細工	制作（デザイン決め・裁断）
15	革細工	制作（スタンピング・カービング）
16	革細工	制作（着色・穴あけ）
17	革細工	制作（レーシング）
18	革細工	作業特性（身体的側面・精神的側面）を理解する。
19	アクティビティ検討	グループワーク
20	アクティビティ検討	グループワーク

2 1	アクティビティ検討	グループワーク
2 2	アクティビティ検討	グループワーク
2 3	まとめ	総合確認
【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。		
【授業の方法・形式と教員紹介】 専任教員(作業療法士/精神障害および高齢期障害領域の実務経験) 各アクティビティの工程を説明した後、実習を行う。 適宜、ノートを取り、作業中に気づいたことを記録しておくこと。授業中にフィードバックします。		

2025年度 教育計画（作業療法学科）

学 年 : 2 科 目 名 : OT治療学 4 (高次脳機能障害OT学) 担当講師名 :

単 位 : 1 単位 教育時間 : 30 時間

教科書 : 作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 高次脳機能障害作業療法学 (出版社) : (メジカルビュー社) 参考書 : (出版社) :

教育目標 【 到達目標 】 : 高次脳機能障害の対象者に対し評価介入の指標が各自見出せること。

対象者像をつかむこと。

【講義概要】

高次脳機能障害を、学生が理解しやすいように、障害ごとに症状と評価・治療を続けて学ぶ。

授業期間の後半には、実際に各検査法の演習を実施して学習する。

回数	項 目	内 容
1	高次脳機能障害概論	高次脳機能障害とは
2	評価について	高次脳機能の評価の特性
3	画像の診方、面接・検査、観察	責任病巣・評価の基本
4	意識障害の評価と治療	症状・評価・治療
5	注意障害の評価と治療	症状・評価・治療
6	半側空間無視の評価と治療	症状・評価・治療
7	記憶 //	症状・評価・治療
8	失認 //	症状・評価・治療
9	失行 //	症状・評価・治療
10	スクリーニングと社会的行動障害	症状・評価・治療
11	遂行機能と言語障害	症状・評価・治療
12	検査各論	グループワーク①
13	//	グループワーク②
14	//	グループワーク③
15	まとめ	実技実習のまとめと講義全体の振り返り

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】

授業期間の前半は講義中心で行い、後半は各種検査のグループワークを取り入れる。

2025年度 教育計画（作業療法学科）

学 年 : 2 科 目 名 : OT治療学6 (ADL実習)

担当講師名 : 奈良 研治

単 位 : 2 単位 教育時間 : 45 時間

教科書 (出版社) : 作業療法学全書 福祉用具の使い方・住環境整備 参考書 (出版社) :

教育目標 【 到達目標 】 : ADLで学んだこと基礎に、福祉用具、IADLについて学習する。また、基本動作・ADL動作シーティングなど実技を体験し臨床に必要な技術を習得する。

【講義概要】

作業療法対象者の生活全体にアプローチをするには、ADLだけでなくIADLも重要である。この講義では、在宅生活においてニーズの高い「調理」と「排痰・吸引」も含めて、ADLの実際を学ぶ。

回数	項 目	内 容
1	福祉用具総論	福祉用具の定義と歴史、作業療法とATの関係を理解する。
2	ベッド、ベッド周辺実技	電動ギャッチベッド(機能と構造)、使用方法を理解する。
3	車いす、シーティング	車いす構造 (スタンダード型・モジュール型、ティルトリクライニング型)を理解する。
4	車いす、シーティング	スタンダード車いすの構造 (分解・組み立てを) 理解する
5	車いす、シーティング	椅子座位姿勢評価マット評価・ハンドリング評価)の実施。
6	基本動作	実技: 起居動作(寝返り・起き上がりなど)の動作分析を理解する。
7	基本動作	実技: 床上動作・移乗動作(トランスファーボード)の動作分析を理解する。
8	自助具	自助具
9	ADL動作	更衣、入浴・トイレ(シュミレーター使用)動作分析を理解する。
10	ADL動作	更衣、入浴・トイレ(シュミレーター使用)動作分析を理解する。
11	ADL動作	更衣、入浴・トイレ(シュミレーター使用)動作分析を理解する。
12	排痰・吸引	標準予防策、吸引(気管、鼻腔、口腔)実施までの流れを理解する。
13	排痰・吸引	標準予防策、吸引(気管、鼻腔、口腔)実施までの流れを理解する。
14	福祉用具のリスクマネジメント	福祉用具の現状・安全性を理解する。(ハインリッヒのピラミッド理論)
15	調理計画	調理実習計画・買い物動作(身体的側面・精神的側面)を理解する。
16	買い出し	買い物動作 (身体的側面・精神的側面) を理解する。
17	調理実習	調理動作(準備・調理・食事・片づけなど)を体験する。
18	調理実習	〃
19	生活行為向上マネジメント	生活行為向上マネジメントの概要を理解する。
20	生活行為向上マネジメント	事例をアセスメント演習シート

2 1	住環境整備	住宅改造（必要性・基本的検討事項）
2 2	住環境整備	〃
2 3	まとめ	総合確認
【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA（優）、70点以上80点未満をB（良）、60点以上70点未満をC（可）とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。		
【授業の方法・形式と教員紹介】 専任教員（作業療法士/高齢期障害および身体障害領域の実務経験） 全日程において実習形式の授業を行う。 動きやすい服装で授業に臨むこと。		

2025年度 教育計画（作業療法学科）

学 年 : 2 科 目 名 : OT治療学 7 (身体障害治療学 I) 担当講師名 : 板倉 麻紀

単 位 : 2 単位 教育時間 : 30 時間

教科書 : 作業療法学全書 改訂第3版 第4巻 作業治療学1 身体障害 (協同医学出版社) 参考書 : ICF国際生活機能分類 (中央法規出版) (出版社) :

教育目標 【 到達目標 】 : 脳卒中を除くさまざまな身体障害の障害像を理解し、治療に際しての観点・考え方を明らかにし、治療プログラムの立案ができるようになる。リウマチ、脊髄損傷、末梢神経損傷、熱傷を中心に。

【講義概要】

疾患ごとの病期や治癒過程における作業療法士の役割を学ぶ。これまでに学習してきた作業療法の技術が、どの場面で使われるのか、典型例から汎化する流れで説明する。

回数	項 目	内 容
1	導入	評価から治療へ、問題点と目標の考え方、リスク管理
2	治療の枠組み	身障領域のアプローチ方法
3	障害別作業療法（関節リウマチ）	リウマチ治療の4本柱・患者教育と関節保護法を学ぶ。
4	ICF	ICFの歴史
5	ICF	ICFの使用方法
6	障害別作業療法（関節リウマチ）	リウマチ患者の装具・自助具とADLについて学ぶ。
7	障害別作業療法（脊髄損傷）	脊髄の構造・機能を学び、脊髄損傷の主症状と二次症状を学ぶ。
8	障害別作業療法（脊髄損傷）	脊髄損傷に特化した検査法（ASIA）を学び、脊髄損傷の分類を知る。
9	障害別作業療法（脊髄損傷）	頸髄損傷者の機能残存筋ごとにADL・IADL・社会参加を学ぶ。
10	障害別作業療法（末梢神経損傷）	腕神経叢と上肢・手指の機能・神経誘発検査を学ぶ。
11	障害別作業療法（末梢神経損傷）	橈骨神経・尺骨神経・正中神経の損傷と治療過程を学ぶ。
12	障害別作業療法（末梢神経損傷）	知覚再教育・脱感作のしくみと方法を学ぶ。
13	障害別作業療法（熱傷）	熱傷の重症度分類・治癒過程の良肢位保持・スプリント療法について学ぶ。
14	障害別作業療法（骨折）	橈骨遠位端骨折を中心に、上肢の特異的な骨折の特徴を学ぶ。
15	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA（優）、70点以上80点未満をB（良）、60点以上70点未満をC（可）とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】

2025年度 教育計画（作業療法学科）

学 年 : 2 科 目 名 : OT治療学 8 (身体障害治療学Ⅱ)

担当講師名 : 板倉 麻紀

単 位 : 2 単位

教育時間 : 30 時間

教科書 : 作業療法学全書 改訂第3版 第4巻 作業治療学1 身体障害 (出版社) : (協同医書出版社)

参考書 : (出版社) :

教育目標 【 到達目標 】 : 脳卒中を除くさまざまな身体障害の障害像を理解し、治療に際しての観点・考え方を明らかにし、治療プログラムの立案ができるようになる。神経疾患・筋疾患については演習を行う。

【講義概要】

疾患ごとの病期や治療過程における作業療法士の役割を学ぶ。

神経・筋疾患についてはグループワークを行い、具体的な症例対応についてディスカッションする。

回数	項 目	内 容
1	内部障害（腎疾患）	腎不全（人工透析）患者の生活動作や社会参加について学ぶ。
2	内部障害（糖尿病）	糖尿病とその3大合併症へのアプローチを学ぶ。
3	内部障害（呼吸器疾患）	在宅酸素療法における作業療法士の役割とADLの工夫を学ぶ。
4	内部障害（心疾患）	心電図のみかたを学習する。
5	内部障害（心疾患）	心疾患を合併する運動器障害患者への対応とリスク管理を学ぶ。
6	神経・筋疾患	神経筋疾患のグループ演習に向けて、各疾患の原因・病理・病期などを学ぶ。
7	神経・筋疾患	
8	神経・筋疾患	
9	グループワーク	神経筋疾患の作業療法についてグループごとに考察し、発表用資料・提出用資料をグループごとに作成する。グループ分けなどの詳細は第5回授業時にプリントを配布して公表する。オンラインでの作業を行う可能性あり。
10	グループワーク	
11	グループワーク	
12	グループワーク	
13	グループ発表	各グループ持ち時間20分間で発表を行う。発表の順番などの詳細は第5回授業時にプリントを配布して公表する。各種プレゼンテーションツールの使用方法について、各自で下調べをしておくことが望ましい。
14	グループ発表	
15	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験とグループ発表の成績により、80点以上をA（優）、70点以上80点未満をB（良）、60点以上70点未満をC（可）とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】 専任教員（作業療法士/身体障害領域の実務経験）

内部障害については講義中心、神経・筋疾患はグループワークによる演習を行う。

2025年度 教育計画（作業療法学科）

学 年 : 2 科 目 名 : OT治療学10(精神科OT学Ⅱ)

担当講師名 : 齋藤 勝

単 位 : 1 単位 教育時間 : 30 時間

教科書 (出版社) : 生活を支援する精神障害作業療法第2版急性期から地域実践まで 参考書 (出版社) :

教育目標 【到達目標】 :

精神保健医療福祉の動向や、疾患の回復段階に沿った関わりや治療を理解し地域移行、定着の重要性を把握する。

【講義概要】

精神科医療の急性期から維持期・地域への流れを学び、それぞれの病期における作業療法士の関わりを学ぶ。

回数	項 目	内 容
1	精神保健医療福祉の動向①	近年の精神保健医療福祉の動向を理解する。
2	精神保健医療福祉の動向②	早期退院・退院支援と地域生活支援を学ぶ
3	作業療法実践①	対象者の個別性と主体性を引き出す重要性を学ぶ
4	作業療法実践②	疾病と回復過程を理解し回復期ごとのポイントを整理する。
5	作業療法実践③	精神科OTにおける生活支援の視点を学ぶ。
6	急性期作業療法①	急性期（要安静期・亜急性期）の状態像から作業療法を考える。
7	急性期作業療法②	回復状態に合わせた作業療法を考える。
8	急性期作業療法③	急性期や慢性期の心理教育について理解する。
9	急性期作業療法④	精神科医療における連携、家族支援について学ぶ。
10	退院支援の考え方①	退院への関わりについて、状態像について疾患の特徴などから考える。
11	退院支援の考え方②	退院支援における留意点、退院促進、支援の実際を学ぶ。
12	地域生活支援のあり方と実際①	再発・再燃予防の重要性を理解する。
13	地域生活支援のあり方と実際②	地域における社会資源、外来作業療法、地域家族支援を理解する。
14	地域生活支援のあり方と実際③	地域におけるデイケア、訪問、就労支援、社会復帰施設を理解する。
15	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】 専任教員（作業療法士/精神障害領域の実務経験）

講義中心の授業形式で行う。パソコンプロジェクターの準備をすること。

2025年度 教育計画（作業療法学科）

学 年 : 2 科 目 名 : OT治療学11(精神科OT学IV) 担当講師名 : 齋藤 勝

単 位 : 2 単位 教育時間 : 30 時間

教科書 : 精神疾患の理解と精神科作業療法 第3版 (出版社) : (中央法規出版) 参考書 : (出版社) :

教育目標 【 到達目標 】 : 精神科OTにおける基本的な流れを再確認し、各疾患ごとの特徴や症例をもとに
評価や治療について学ぶ

【講義概要】

これまでの精神科関連授業の内容を元に、各疾患の症状・病期に合わせた作業療法士の関わりを学ぶ。

疾患別の精神科作業療法という枠組みで学習を進める。

回数	項 目	内 容
1	精神科医療について	精神科評価について振り返りながら精神科医療について確認する。
2	各疾患の理解と作業療法展開①	統合失調症の理解と作業療法について考える。（事例）
3	各疾患の理解と作業療法展開②	統合失調症の理解と作業療法について考える。（事例）
4	各疾患の理解と作業療法展開③	統合失調症の理解と作業療法について考える。（事例）
5	各疾患の理解と作業療法展開④	気分障害の理解と作業療法について考える。（事例）
6	各疾患の理解と作業療法展開⑤	神経症の理解と作業療法について考える。（事例）
7	各疾患の理解と作業療法展開⑥	神経症の理解と作業療法について考える。（事例）
8	各疾患の理解と作業療法展開⑦	摂食障害の理解と作業療法について考える。（事例）
9	各疾患の理解と作業療法展開⑧	依存症候群の理解と作業療法について考える。（事例）
10	各疾患の理解と作業療法展開⑨	依存症候群の理解と作業療法について考える。（事例）
11	各疾患の理解と作業療法展開⑩	パーソナリティ障害の理解と作業療法について考える。（事例）
12	各疾患の理解と作業療法展開⑪	パーソナリティ障害の理解と作業療法について考える。（事例）
13	各疾患の理解と作業療法展開⑫	認知症の理解と作業療法について考える。（事例）
14	新しい精神科医療の枠組みと作業療法	地域生活支援と作業療法、医療観察制度
15	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】

2025年度 教育計画（作業療法学科）

学 年 : 2 科 目 名 : OT治療学12(高齢期OT学) 担当講師名 : 南 周次

単 位 : 2 単位 教育時間 : 30 時間

教科書 : 作業療法学全書 改定第3版 第7巻 作業治療学4 参考書 :
(出版社) : 老年期(協同医書出版社) (出版社) :

教育目標 【到達目標】 : 高齢者に起きる様々な変化を理解し、適切な評価について学び、高齢者作業療法の
視点を理解する。

【講義概要】

高齢期に起こりやすい生理的変化や生じやすい障害について学び、症例検討演習を通じて、臨床的に
求められる作業療法士の役割・関わり方を身につける。

回数	項 目	内 容
1	オリエンテーション	授業予定と高齢者OT学の概略について説明する
2	高齢社会と課題	高齢化の進展と社会制度について理解する
3	高齢期の特徴①	4つの喪失、老人に伴う全身変化、循環機能・呼吸機能の変化について理解する
4	高齢期の特徴②	内分泌・腎・消化機能、筋・体温調節・睡眠の変化について理解する
5	高齢期におこりやすい症候	廃用症候群、寝たきり・閉じこもり、低栄養、OA、脊柱の変化について理解する
6	高齢期OTの評価	評価項目、過程で留意すること、リスク管理について理解する
7	高齢期OTの実践	高齢者の目標、治療（援助）、計画、実施について理解する
8	病期に応じた治療（援助）	急性期、回復期、維持期（生活期）におけるOTについて理解する
9	認知症	認知症の原因、評価、OTについて理解する
10	虚弱高齢者	虚弱高齢者の評価、OTについて理解する
11	症例グループ討議	症例の評価、治療（援助）目標、計画の検討を学ぶ
12	症例グループ討議	症例の評価、治療（援助）目標、計画の検討を学ぶ
13	症例グループ討議	症例の評価、治療（援助）目標、計画の検討を学ぶ
14	グループレポート発表	症例検討したグループ発表
15	まとめ	総合確認

【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満を
C(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介】 講義を中心とした授業形式で行う。期間の後半には、症例検討演習を行う。

2025年度 教育計画（作業療法学科）

学 年 : 2 科 目 名 : OT治療学14(中枢治療学)

担当講師名 : 笹野 直人

単 位 : 2 単位 教育時間 : 45 時間

教科書 (出版社) : 脳卒中理学療法の理論と技術 (メジカルビュー) 参考書 (出版社) :

教育目標 【到達目標】 : 脳卒中を中心とした脳血管障害のリハビリテーションについて、評価・治療の基本的内容を理解し、修得する。

【講義概要】

脳血管病変の病理を理解した上で、特徴的な症状や脳卒中に特化した評価手技を学ぶ。

二次的に生じるさまざまな障害への対応も含めて、治療方法の大枠を学習する。

回数	項 目	内 容
1	解剖生理学の知識	脳卒中に関わる基本的な解剖・生理
2	解剖生理学の知識	脳卒中に関わる基本的な解剖・生理
3	脳卒中の病態と治療	脳卒中の病態、病型、疾患の特徴、症状、治療
4	脳卒中の病態と治療	脳卒中の病態、病型、疾患の特徴、症状、治療
5	評価(1)	スクリーニング、意識障害(JCS, GCS)、脳画像の基本 (CT, MRI画像の見方)
6	評価(2)	筋緊張の異常、筋緊張の検査 (MAS等)、反射 (深部反射、表在反射、病的反射)
7	評価(3)	運動麻痺 (運動麻痺の分類、上位運動ニューロン障害と下位運動ニューロン障害)
8	評価(4)	運動麻痺 (回復過程、共同運動、連合反応、姿勢反射等)
9	評価(5)	運動機能検査 (Brunnstrom stage test)
10	評価(6)	運動機能検査 (12段階片麻痺機能テスト、FMA、SIAS等)
11	評価(7)	感覚障害 (表在感覚、深部感覚、複合感覚) の評価
12	評価(8)	姿勢、バランス機能評価
13	脳の可塑性	運動麻痺回復の機序、CI療法
14	治療(1)	ポジショニング、基本動作 (寝返り、起き上がり)、回復期の運動療法
15	治療(2)	基本動作 (座位保持、立ち上がり、立位保持)、回復期の運動療法
16	治療(3)	上肢の治療 (上肢治療の特異性、上肢治療の実際)
17	治療(4)	上肢の治療 (上肢治療の特異性、上肢治療の実際)
18	脳卒中患者の歩行	正常歩行と片麻痺歩行、歩行の評価と治療
19	協調運動障害	運動失調の鑑別、小脳性運動失調の評価と治療
20	空間認知の障害	pusher現象の評価と治療

2 1	脳卒中患者の肩の問題	肩関節亜脱臼、肩の痛み、肩手症候群、有痛性拘縮
2 2	脳卒中患者の予後予測	上肢機能、歩行、ADL等についての予後予測
2 3	まとめ	総合確認
【成績評価方法】 定期試験の成績により、80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。		
【授業の方法・形式と教員紹介】 専任教員（作業療法士/身体障害領域） 講義中心の授業を行う。		

2025年度 教育計画（作業療法学科）

学 年 : 2 科 目 名 : 地域OT学(地域OT学) 担当講師名 :

単 位 : 2 単位 教育時間 : 30 時間

教 科 書 (出版社) : 作業療法学全書 地域作業療法学 参 考 書 (出版社) :

教育目標 【 到達目標 】 : 地域リハ・作業療法の基本的な考え方と実践例、及び各種制度や社会資源の理解を通して、
作業療法士に必要な知識を身につける。

【講義、グループワークの概要】

地域リハ・作業療法を支える制度、社会資源や介護保険・障害者総合支援法などについて学ぶ。

地域リハにおける事例から作業療法士の役割を学ぶ。

回数	項 目	内 容
1	地域リハビリテーション ①	オリエンテーション、地域とは？
2	〃 ②	地域リハの考え方を理解する。
3	地域作業療法	地域作業療法の基本、連携を理解する。
4	地域リハ（作業療法）を考える ①	グループワーク（以下、GWと表記）の概略説明
5	〃 ②	GW（医療関連：地域生活者に対する医療サービス）
6	〃 ③	発表（医療関連）、GW（介護保険関連：ケアマネジャー、介護保険サービス）
7	〃 ④	発表（介護保険関連）、GW（障害者総合支援法関連：障害福祉サービス）
8	〃 ⑤	発表（障害者総合支援法関連）、GW（家族、その他の社会資源）
9	〃 ⑥	発表（家族、その他の社会資源）
10	地域リハ事例 ①	デイケア
11	〃 ②	家族支援
12	〃 ③	アウトリーチ ①
13	〃 ④	アウトリーチ ②
14	まとめ	
15	試験	

【成績評価方法】試験、レポート、発表の総合成績により、80点以上をA（優）、70点以上80点未満をB（良）、60点以上70点未満C（可）とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。

【授業の方法・形式と教員紹介 非常勤講師（作業療法士/精神障害領域の実務経験）

授業形式：講義、グループワーク、発表

2025年度 教育計画（作業療法学科）

学 年 : 2 科 目 名 : 地域OT学(地域生活マネジメント実習)

担当講師名 : 奈良 研治

単 位 : 2 単位 教育時間 : 45 時間

教科書
(出版社) : なし参考書
(出版社) :

教育目標 【到達目標】 : 地域生活者（在宅生活者）に対する作業療法の実践を体験する。

介護予防的サービスにおける作業療法士の役割を理解する。

チームにおける主体的なふるまいを身につける。

【講義概要】 立川市社会福祉協議会が主催する地域サロンに参加し、実践実習を行う。

実習前後のグループワークにおいて、当日へ向けての準備と実習を振り返り行う。

個ではなく集団での行動をメンバーが主体的に定め、地域リハチームの活動を疑似的に体験する。

回数	項 目	内 容
1	導入	地域生活マネージメント実習実施要項の説明とオリエンテーション
2	導入	地域生活マネージメント実習実施要項の説明とオリエンテーション
3	実習前グループワーク	グループ演習（フリータイム）
4	実習前グループワーク	社会福祉協議会の成り立ちや立川市社会福祉協議会について学ぶ。
5	実習前グループワーク	グループ演習（フリータイム）
6	実習前グループワーク	実習に向けて、役割分担・アクティビティ・進め方などを話し合う
7	実習前グループワーク	（担当教員の指導を受ける場合は前日までにアポをとること）
8	実習前グループワーク	
9	グループ発表	社協のサロンで実習当日に行う内容をグループごとに発表する
10	グループ発表	社協のサロンで実習当日に行う内容をグループごとに発表する
11	準備的グループワーク	グループ実習（フリータイム）
12	準備的グループワーク	実習に向けて、必要な物品の買い出しなどの準備を行う
13	準備的グループワーク	（担当教員の指導を受ける場合は前日までにアポをとること）
14	準備的グループワーク	
15	実習	立川市社会福祉協議会主催の地域サロンにおいて実習を行う （開催日時についてはサロンによって異なる）
16	実習	
17	実習	
18	実習	
19	実習後グループワーク	グループ演習（フリータイム）
20	実習後グループワーク	実習を振り返ってレポートにまとめる

2 1	グループ発表	実習レポートのグループ発表
2 2	グループ発表	実習レポートのグループ発表
2 3	まとめ	講評・統括
【成績評価方法】 グループワーク・実習・発表を評価対象とする。80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とし、60点未満は不合格とする。なお、総授業時間の7割以上の出席者に対してのみ成績評価を行う。		
【授業の方法・形式と教員紹介】 オンラインのグループワークを推奨する。 各グループで集合時刻や進行役などを決め、自発的に臨むこと		

2025年度 教育計画（作業療法学科）

学 年 : 2 科 目 名 : 臨床実習(臨床実習セミナーⅠ)

担当講師名 : OT教員(板倉)

単 位 : 2 単位

教育時間 : 60 時間

教科書
(出版社) : なし

参考書
(出版社) :

教育目標 【 到達目標 】 : 評価実習と関連の強い科目である。実習前評価（OSCE）・評価実習・
実習後評価（口述発表）を通じて、卒前の作業療法評価学習のまとめとする。

【講義概要】

主にOSCE（客観的臨床能力試験）とその演習から成る。OSCEで問われる内容は事前に通達されないが、
さまざまな対象者を想定した演習の中で、すでに学んだ各種検査方法を実際の対象者に合わせて行うことを学ぶ。

回数	項 目	内 容
1	評価実習の全般説明	評価実習の目的・内容・到達目標などについての説明
2	OSCEの説明	実習前評価（客観的臨床能力試験）についての説明
3	領域ごとの特論	記録・報告・身体障害領域（笹野）
4	領域ごとの特論	身体障害領域（板倉）
5	領域ごとの特論	身体障害領域（中村）
6	領域ごとの特論	精神科領域（齋藤）
7	領域ごとの特論	ADL・高齢期領域（奈良）
8	OSCE演習	実技試験に向けての演習（基礎）
9	OSCE演習	実技試験に向けての演習（基礎）
10	各領域のまとめと確認	筆記試験
11	OSCE演習	実技試験に向けての演習（評価1）
12	OSCE演習	実技試験に向けての演習（評価1）
13	OSCE演習	実技試験に向けての演習（評価2）
14	OSCE演習	実技試験に向けての演習（評価2）
15	OSCE演習	実技試験に向けての演習（総合）
16	OSCE演習	実技試験に向けての演習（総合）
17	実習前評価	OSCE①
18	実習前評価	OSCE①
19	実習前評価	OSCE②
20	実習前評価	OSCE②

2 1	実習前評価	OSCE③
2 2	実習前評価	OSCE③
2 3	実習オリエンテーション	オリエンテーション・資料配布
2 4	実習オリエンテーション	オリエンテーション・資料配布
2 5	実習後評価	実習内容についての口述発表
2 6	実習後評価	実習内容についての口述発表
2 7	実習後評価	実習内容についての口述発表
2 8	実習後評価	実習内容についての口述発表
2 9	実習後評価	実習内容についての口述発表
3 0	まとめ	総合確認
【成績評価方法】 筆記試験とOSCEと口述発表のすべてに合格した場合に成績判定を行う。80点以上をA(優)、70点以上80点未満をB(良)、60点以上70点未満をC(可)とする。		
【授業の方法・形式と教員紹介】		